

## バルカーテクノロジーニュース 冬号発刊にあたって



謹んで令和2年新春のお慶びを申し上げます。皆さまには日頃からValqua Technology Newsをご愛読いただき、心より感謝申し上げます。

令和の時代を迎えて、企業の成長に向けてイノベーションが果たす役割に対しては関心と期待が非常に高まっております。IoTやAIなどの技術革新がもたらす変化は、単一の製品技術開発によるソリューションが他の技術解と結びつき、複合化あるいは多様化された新たな付加価値を持った製品やサービスが市場へ提供されることが求められるように変遷しつつあります。また、その変化を後押しする技術開発では、効率化とスピードを追求した成果を創出することが必要不可欠であり、グローバルに展開する多種多様な技術開発活動が有機的に結びつく技術開発のエコシステム構築が、産官民の組織を巻き込んだオープンイノベーションというキーワードの下で鋭意実行されております。

そのような潮流の中で、当社も時代の流れに乗り遅れることが無いように、2018年より開始された中期事業計画NV・S8の中では様々な取り組みを行ってまいりました。特に、昨年度は産業技術総合研究所内にバルカー産総研先端材料技術研究所を開設するとともに、シリコンバレーなどのStart Ups企業から発信される技術を活用する仕組み作りを推進してまいりました。本年度から開始される新たな中期経営計画の中においても、これらの新たな技術解を活用し、当社は創業以来蓄積されたシーリング技術、ふっ素樹脂をはじめとする樹脂の加工技術といったコア技術領域に、先端新素材、センシング技術、IoTやAI技術といった新たな技術要素を組み込み、顧客が真に求めるソリューションをハード製品からサービスまでを包含する領域に対しH&S商品として提供する技術開発活動を強化しております。更に、先端的技術ソリューションを高品質な商品として市場へ提供するため、生産技術革新に対してもRPAの導入なども視野に入れた活動の展開を推進しております。

このような背景の下、今号のテクノロジーニュースでは当社が推進する次世代技術の導入を見据え、まずはそのベースとなるべきシールエンジニアリングのコア技術に焦点を当てて、当社の技術を紹介する論文、そしてコア製品の紹介という構成といたしました。技術論文につきましては、大口径フランジ締結体で締付け方法が密封特性などに与える影響の解析、グランドパッキンの締付けによる圧縮挙動に対する考察、セミメタリックガスケットの性能評価を取り上げ、読者の皆さまがプラントの安心安全のためご参考いただける技術レビューとして構成いたしました。また、製品紹介は、有用性が市場で再認識されている急速開閉シリンダーバルブ、新たに開発された洗浄用スプレーボールを取り上げ、顧客の皆さまにとって今後の製品選定に対して有用な情報を提供させていただいております。

本年も、これまでと同様にこのバルカーテクノロジーニュースを引き続きご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

取締役CTO 青木 睦郎